

障害者スポーツのボランティア参加動機に関する研究 ー車椅子バスケットボールに注目してー

A study on the motivation to participate in volunteer for sports with disabilities:
focusing on wheelchair basketball

1K05B172

西本 佑己

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 間野義之先生

1. 目的

筆者がボランティアを行っている車椅子バスケットボールを含む障害者スポーツは、ノーマライゼーションを推進する上で非常に重要な役割を担うと確信している。この障害者スポーツを支えるボランティアは、経営体を支えているだけでなく、ノーマライゼーションの実行者でもある。そのため、本研究では、彼ら／彼女らのボランティア参加動機を明らかにすることを通して、ボランティアの活性化を図りたい。

2. 研究方法

群馬県前橋市において 2008 年 9 月 27～28 日に開催された第 19 回日本選抜車椅子バスケットボール選手権大会にて、参加したボランティアを対象として質問紙調査を行った。質問紙は、参加動機と満足度を5段階尺度で測ったものである。これらと個人特性の関係性を探った。また、それを基に、日本車椅子バスケットボール連盟広報の E 氏にインタビュー調査を行い、マネジメント方法の現状を聞き、今後のあり方を探った。

3. 結果と考察

まず、参加動機について、因子分析を行ったところ「利他心」因子、「利己心」因子、「大会貢献」因子、「存在意義確認」因子の4因子が抽出された。この中で、「年齢」、「職業」と第1及び第4因子、「参加回数」と第1・3・4因子、「体育館までの移動手段」と第1因子との関係で有意差があった。これらの中で特に興味深かったのが、職業別に

みた参加動機の特徴である。この職業との関係でキーとなるのは学生の存在であった。彼らは他の職業のグループと比べると強い第4因子（「存在意義確認」因子）の動機を持っていることがわかった。（因子得点の平均値－会社員・公務員：-0.10 点、主婦・自営業・その他：-0.56 点、学生：0.17 点）これは、学生が自我の目覚めを経験し、自らの存在を認められたい、新しいことを学びたいという欲求を持っているというように解釈できるはずだ。

また、満足度との関係では、「担当係」との関係が顕著に見られた。「充実した時間を過ごすことができた」（駐車場係：3.26 点、清掃・案内・受付：4.09 点、コート拭き：4.21 点、オフィシャル：4.08 点、テント村：4.33 点、その他：4.22 点）、「ボランティア活動が楽しかった」（駐車場：3.26 点、清掃・案内・受付：4.09 点、コート拭きが：4.21 点、オフィシャル：4.08 点、テント村：4.33 点、その他：4.22 点）の2項目で、有意差が見られた。この2項目を見ると、駐車場係が低いことがわかる。駐車場係で、この結果が見られたことは、業務内容が車の交通整備であり、周囲と話しながらできる仕事ではないことと、外での仕事のために試合は見られず、選手との交流もないことが原因だと考えられる。

インタビュー調査では、これらの結果を報告したところ、実感と重なっているとのことだった。今後のマネジメントのあり方としては、例えば、学生は、一緒に参加した学生と同じ担当係にするのはもちろんだが、その担当班に障害者の担当者を入

れる。そうすれば、彼らの「存在意義確認」(第 4 因子)という欲求が満たされるのではなかろうか。また、担当係は今大会の「駐車場係」の満足度が低かったことから、これら満足度の低い業務内容が予想される係(選手との交流がない・試合が見れない)はローテーションにするというマネジメントが必要となるだろう。

4. まとめ

職業と動機や担当者と満足度などいくつかの個人特性との関係が明らかになった。これらを材料にし、ボランティアの拡大・継続に生かしていくことが可能になるだろう。事務局の蓄積された、知識をより体系的にまとめ、それを根拠としたマネジメント方法を考えていけば、多くのボランティアが楽しく活動をして、長く続けていってくれるということが可能になるのではなかろうか。